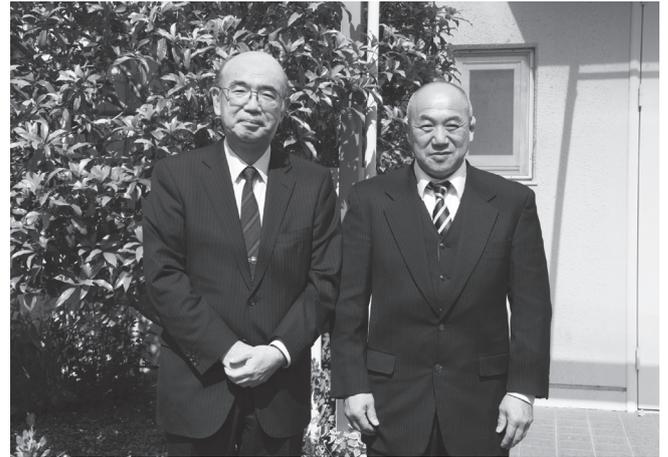


「岡山伝道所に伝道師をお迎えして」

大会伝道局理事長 田部郁彦

未だコロナ禍が続き、各教会・伝道所とも厳しい状況のもとで、福音宣教、教会形成にお励みのことと存じます。そのような中であって、大会伝道局の働きをお覚えくださり、大会伝道地のためにお祈りくださり、様々な形でお支えくださっていますことを、まずもって感謝申し上げます。

さて、大会伝道地であります岡山伝道所は、2007年6月以来、本年4月まで、専任の伝道者を迎えることができず無牧師状態が続いておりましたが、この度、伝道師をお迎えすることができました。全国に無牧師の群れが多数ある中で、伝道者を迎えることができましたことは、本当に感謝に絶えません。先日、5月3日、近畿中会議長黒田浩史牧師(住吉教会牧師、大会伝道局書記)の司式のもと安彦晴樹教師試補の伝道師就職式が、恵みのうちに執り行なわれました。伝道師として就職された安彦教師試補は、今春、神学校を卒業されたばかりの方です。当日、中四国地区の教会をはじめ、近畿中会内の諸教会から、コロナ禍ということもあり、限られた方々ではありましたが、



33名(内他教会から17名)の出席者がありました。式後行われました感謝会では、数名の方々から心温まる祝辞を頂くことができました。特に、喜びに満ち、印象深い祝辞をくださった鈴木攻平先生は、数年前、無牧師であった秋田教会で2年にわたり応援をされ、当時、同教会の長老であった安彦教師試補の献身のきっかけを作ってくださいました。終始、喜びに満ちた就職式と感謝会でありました。岡山伝道所と安彦伝道師のこれからの歩みを覚えてくださり、お祈りくださいますようお願い申し上げます。

ここで、もう一つ感謝をもってお覚え頂きたいことがあります。それは岡山伝道所の無牧師の期間に応援教師として御奉仕くださった三瓶長寿先生のお働きについてであります。三瓶先生は2007年9月から本年4月まで、無牧師であった同伝道所にあつて、15年の長きに渡って御奉仕くださいました。三瓶先生は2007年3月に49年間にわたる鎌倉での伝道牧会を終えられ、同年9月、大会伝道局の求めに応じ、応援教師としての



御奉仕を始めてくださいました。先生は同伝道所に定住され、主日の礼拝に説教者として御奉仕くださったばかりではなく、同伝道所における伝道と牧会のすべての働きを担ってくださいました。そして教会形成の基本となる様々な事柄について丁寧にご指導くださり、現在の岡山伝道所を育ててくださいました。三瓶先生のお働きは、いわゆるピンチヒッターとしての応援教師のそれとは全く異なり、先生ご自身、長年の伝道者としての歩

みにおいて培ってこられた貴重な財産を同伝道所のために注ぎ込んでくださったのであります。そのような先生の良きお働きがあったことをも、同伝道所の伝道師就職式に際し、私たちは感謝をもって覚えたいと思います。

最後になりましたが、岡山伝道所が中四国地区の伝道の拠点となって、良き実を結ばれますことを願い、また期待したいと思います。

「大会応援伝道に感謝」

稚内萩見伝道所委員 松田君子

1966年4月10日のイースター礼拝から最北の地稚内に於いて井上一央牧師による開拓伝道が開始され、2019年4月8日急逝（84歳）までの53年間をこの地に於いての伝道に働いてこられました。牧師突然の召しに私たちは萩見伝道所がどうになってしまうのか不安でしたが、中会の支えを頂き、札幌白石教会の斎藤義信牧師が指導教職となってくださいました。第1、第2主日は浅井永教師が上川から車で片道5時間かけて午前10時30分からの礼拝に説教奉仕に来て下さり、日帰りで帰られます。第3、第4、第5主日は指導教職斎藤義信牧師からの説教原稿を委員が代読する形で礼拝のお恵みに預かってきました。

大会応援伝道承認のお知らせを頂き、2020年5月23～24日に大会伝道局書記の齋藤修牧師（静岡磐田西教会）をお迎えする予定でした。ポスターもチラシも出来あがり、各教会へのご案内のはがきも発送寸前でしたが新型コロナウイルスの流行のため8月29～30日に延期となり、再度8月初めから準備に入りました。

稚内はポスターを貼らせて頂ける所が少なく100枚作成し、市の一部の施設、町内会館、JR南稚内駅にお願いしました。教会員が各自宅に数枚ずつ貼り、残りは教会の玄関や左右の壁にズラリと並べて貼りました。チラシは150枚を、教会の周辺のお宅に配布、教会員それぞれが知人・友人にお渡ししました。幼稚園は閉園しましたが、幼稚園教諭だった方々や、父母、卒園児の方々に種は蒔かれていますので、その方々もお誘いしました。教会の中はコロナ対策として、会堂を広く使い、離れて座るようにしました。

8月29日（土）は午後3時から齋藤修牧師により教会員の研修会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの東京での感染が収まらないことから、稚内にコロナを持ち込まないためにと飛行機のルートを変更してくださいました。そのため土曜日の研修会には間に合わず、大会伝道局



理事の中澤禎長老（札幌琴似教会）が講師となって下さり、「日本キリスト教会の3つの特色」と題し、(1) 信仰告白に生きる教会、(2) 長老制の教会、(3) 独立性と公同性を重んじる教会について、わかりやすくお話してくださいました。参加は教会員8名でした。

8月30日（日）応援伝道礼拝は、指導教職の齋藤義信牧師が司会をして下さり、説教は齋藤修牧師による「能力の開発～タラントンのたとえ～」（マタイによる福音書25章14～30節）でした。初来会者が5名おられました。その中に稚内市の水産加工会社に技能実習生としてベトナムから来られている若者の男女が3名おられました。その中のお一人は、その後の礼拝にも来られ、良い交わりができています。礼拝の後には質問コーナーを設けて下さり、三位一体のこと、カトリックとの違い、献金のこと、天国に行くには等の質問があり、お二人の先生によって教会に初めて来られた方にも分かりやすく丁寧にお話してくださいました。コロナウィルスが流行している時でもありませんし、天候もあまりよくなかったですが参加は全部で26名でした。とても良い集会になり感謝でした。今回の説教で、1タラントン預かった者の「蒔かない所から刈り取る厳しい方」だと思っている神理解が間違いであること。神様は小さな者が、小さな者にする本当に小さなことに眼を留めて「よくやった。良い忠実な良い僕だ。」と喜んでくださる方だと思いました。

稚内萩見伝道所は日本キリスト教会の一つの枝でありながら、ほかの教会との交わりをすること



もなく、永い間孤立していましたが、この度の大会応援伝道のお知らせのはがきに対し、励ましのお便りを頂き、祈られていることに感謝と喜びでいっぱいでした。

今年1月に、説教奉仕に来てくださっております浅井永教師が、稚内萩見伝道所の牧師として赴任して下さるとの申し出を頂きました。9月29日に教師派遣の臨時中会が開催されます。

稚内萩見伝道所は、現住陪餐会員11名、礼拝出席者12名前後、日曜学校生徒3～5名の小さな群れです。井上一央牧師が亡き後の稚内萩見伝道所は無牧だろうと教会員の誰もが思っていたことです。浅井永教師に牧師になって頂き、力を合わせ、この地のまだ救われていない魂のために働いていきたいと思えます。お預かりしているタラントンを使って。

わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる神様に感謝申し上げます。

「無牧とコロナ感染症の中で」

小倉教会長老 田村由比子

当教会は、北九州市小倉の街中にあり、周りは商業施設やホテル、オフィスビル、高層マンションという感じです。この立地のため旅行者（外国

人旅行者を含む）や出張で来られた方などが出席をされます。又キリスト教系の学校の学生や留学生も良く来られます。ただ昨年からのコロナ感染



症によりその数は減少しました。旅行者に至ってはほぼ零です。そして今年2月より牧師不在となりました。現在九州中会の先生方、引退された先生、近隣他派教会の先生、時には東京中会の先生にもお力添えをいただき、コロナ感染症に注意を払いながら、また時間を変更することなく毎週礼拝を捧げています。この度の特別伝道礼拝は昨年行う予定でしたが、コロナ感染症により断念致しました。今年は是非とも行いたいと切に願い、住吉教会の皆様にも黒田先生を送り出していただき開催の運びとなりました。

黒田先生には、神学校3年生の時(1990年旧会堂時代、現会堂は1999年竣工)夏季伝道に来ていただきました。あれから31年の時を経て円熟された黒田先生の説教をお聞きしたくお願いした次第です。先生には、無牧とコロナ禍で疲弊している私たちに元気と希望の持てるお話をと無理なお願いをいたしました。

9月26日(日)「生き甲斐を求めて」と題し、ヨハネによる福音書4章1節～15節のみ言葉に聞きました。人生の四つの段階(幸せの4階建て)ということで具体例を挙げお話いただきました。3階イエスの十字架に倣う(肖る)、4階イエスの復活の姿に倣う(肖る)、人々を救うためにご自分を犠牲にされたイエス様、その姿に肖る、この難しさはキリスト者ならば皆様も体験済みでありましょう。“肖り鯛”(本物に近づきたいという思いを込めて)になれるよう“良き生”を生きたいと気持ちを新たにされました。

大会応援伝道として行ったのですが、コロナ禍もあってあまり大々的に広告を致しませんでした。当日は男性6名、女性17名、計23名の出席(最近の礼拝出席は15名弱)があり、初めての方も1名いらっしゃいました。黒田先生にはお車でお越しいただくという気を遣わせてしまい、また愛餐会も行わず失礼なことばかりで申し訳なく思っています。しかしながら、私たち小倉教会にとっては多くの恵みと歩むべき指針が与えられ感謝です。コロナ禍で世界が大きく変化しています。コロナ後の信仰生活はどうなって行くのかわかりませんが、私たちは変わらないものを知っていますから、うろたえることなく歩みを進めたいと思います。

大会応援伝道の案内に応じて、お励ましのお便りを何通かいただきました。この書面をお借りしてお礼申し上げます。

ありがとうございました。



今年度後半の大会応援伝道

静岡池田伝道所 7月10日(日)

講師 黒田浩史(住吉教会牧師)

西経堂伝道所 (秋に予定)

講師 三輪恵愛(岐阜教会牧師)